

NEWS RELEASE

2020年10月30日
株式会社三菱総合研究所

2020年7-9月期 GDP 1次速報予測

株式会社三菱総合研究所(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:森崎孝)は、内閣府より11月16日(月)に公表予定の2020年7-9月期のGDP速報(1次QE)について予測を行いました。

2020年7-9月期の実質GDPは、季節調整済前期比+4.3%(年率+18.2%)と予測します。

2020年7-9月期の実質GDPは、季節調整済前期比+4.3%(年率+18.2%)と、前期(季節調整済前期比▲7.9%(年率▲28.1%))から一転し、大幅なプラス成長に転じると予測する。四半期別の成長率としては、同一基準の統計として遡れる1980年以降で最大となった。ただし、実質GDPの水準は、コロナ危機前(2019年10-12月期)の水準には至らず、コロナ危機前より4.5%程度低い水準にとどまる見込み。

民間最終消費は、同+3.1%の増加を予測する。経済活動の再開や特別定額給付金の支給が消費を下支えした。もっとも、7、8月には東京都を中心に感染が拡大したことから、一部自治体における営業自粛要請や企業・消費者の自発的な活動抑制もあり、前期の大幅な落ち込みと比較すれば、弱い回復にとどまる見込み。民間企業設備投資は、需要の下振れによる設備過剰感や、資金繰り懸念、先行き不透明感の強さなどを背景に、企業の投資計画が見直されていることから、同▲2.0%と2四半期連続の減少を予測する。

輸出は、経済回復の早い中国向けを中心に、同+9.5%と大幅な増加を予測する。輸入は、低調な内需を受けて同▲8.3%と大幅な減少を予測する。結果として、外需の寄与度は+2.9%ポイントを見込む。

図表 2020年7-9月期 GDP速報 予測結果

単位：断りがない限り 季調済前期比(%)		2019年		2020年	
		10-12月期 実績	1-3月期 実績	4-6月期 実績	7-9月期 予測
実質GDP		▲1.8 (▲7.0)	▲0.6 (▲2.3)	▲7.9 (▲28.1)	4.3 (18.2)
	季調済前期比年率				
民間最終消費		▲2.9	▲0.7	▲7.9	3.1
民間住宅投資		▲2.2	▲4.0	▲0.5	▲2.8
民間企業設備投資		▲4.7	1.7	▲4.7	▲2.0
民間在庫	寄与度	0.0	▲0.1	0.3	▲0.2
政府最終消費		0.3	0.0	▲0.6	0.8
公的固定資本形成		0.6	▲0.5	1.1	1.5
財・サービス輸出		0.4	▲5.4	▲18.5	9.5
財・サービス輸入		▲2.4	▲4.2	▲0.5	▲8.3
内需	寄与度	▲2.3	▲0.3	▲4.9	1.4
民需	寄与度	▲2.4	▲0.3	▲4.8	1.1
公需	寄与度	0.1	0.0	▲0.1	0.3
外需	寄与度	0.5	▲0.2	▲3.0	2.9
名目GDP		▲1.5 (▲5.7)	▲0.5 (▲1.8)	▲7.6 (▲27.2)	4.4 (18.6)
	季調済前期比年率				
GDPデフレーター	前年同期比	1.2	0.9	1.3	1.2
国内需要デフレーター	前年同期比	0.7	0.7	▲0.1	▲0.0

注：表中の実績値は2020年4-6月期2次QE。シャドー部分が今回の予測値。
出所：実績は内閣府「国民経済計算」、予測は三菱総合研究所

本件に関するお問い合わせ先

株式会社三菱総合研究所
〒100-8141 東京都千代田区永田町二丁目 10 番 3 号

【内容に関するお問い合わせ】

政策・経済センター 田中康就 綿谷謙吾
電話:03-6858-2717 メール:macro-ml@mri.co.jp

【報道機関からのお問い合わせ】

広報部
電話:03-6705-6000 メール:media@mri.co.jp